

「系列」と「論争」を通して見るフランス文学

日時：2017年10月25日（水）13時～18時

会場：首都大学東京（南大沢キャンパス） 国際交流会館

（フランス語 入場無料 翻訳・通訳あり）



第1部 13:00～14:45 司会：ジョスラン・グロワザール（本学准教授）

趣旨説明：「仮想討論会としてのフランス文学」 藤原真実（本学教授）

「18世紀の小説と思想論争」 ジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン（パリ第12大学名誉教授）

「18世紀の思想論争をめぐって ―バルザック作品からのアプローチ」 大須賀沙織（本学准教授）

第2部 15:00～16:00 レクチャーコンサート：「系列」、「論争」の観点から室内楽・声楽作品を考える

司会・フルート	村中由美子（本学助教）	フルート	山本潤（本学准教授）
歌唱（テノール）	大久保康明（本学名誉教授）	ピアノ	鈴木麻純（本学大学院生）
歌唱（ソプラノ）	大久保藍（東京芸術大学音楽学部学部生）		

第3部 16:15～18:00 司会：ジョスラン・グロワザール

「思想論争の系列的構造」 シルヴァン・ムナン（パリ・ソルボンヌ大学名誉教授）

「『コリドン』から『ソドムとゴモラ』へ ―親近それとも対立？」 吉川一義（本学および京都大学名誉教授）

質疑応答 （通訳：ジョスラン・グロワザール／村中由美子）

問い合わせ：フランス語圏文化論教室 Tel: 042-677-2205

主催：首都大学東京人文科学研究科フランス文学教室

科学研究費基盤研究（C）「17-18世紀フランス文学における「恋愛論争」の間テクスト的研究」

共催：科学研究費基盤研究（B）「18世紀における知識とマナー、秩序：公共知の東西比較」

後援：日本18世紀学会

講師紹介

シルヴァン・ムナン Sylvain Menant

パリ・ソルボンヌ大学名誉教授

1939 年生まれ。パリ第 10 大学フランス文学部教授および文学部長を経て 1986 年からパリ・ソルボンヌ大学教授、ソルボンヌ大学および CNRS 傘下の 16-18 世紀フランス文学研究センター (CELLF) 所長を務め (2000-2008 年)、フランス文学研究の中心的な学術誌である『フランス文学史雑誌』*RHLF* を主宰する (1991-2004 年)。フランス文学研究の国際的な連帯組織である国際フランス学会会長、*RHLF* の母体であるフランス文学史学会会長を歴任、歴史的・地理的に広範な視野を持ってフランス文学研究を率いてきた。

18 世紀フランス文学を専攻領域とし、詩と批判的思想、とりわけヴォルテールの著作について多数の著書および論文を著している。その研究は、名作や忘れられた著作が着想され、練り上げられ、受容される背景にあった文化的状況への関心によって特徴づけられる。

主要著作

- *La Chute d'Icare. La Crise de la poésie française dans la première moitié du XVIIIe siècle*, Genève, Droz, 1981.
- *L'Esthétique de Voltaire*, Paris, SEDES, 1995.
- *La série parodique au XVIIIe siècle*, travaux du Groupe d'approche sérielle de la littérature du XVIIIe siècle, Paris, PUPS, 2005 (avec D. Quero).
- *L'Héroïsme au Siècle des Lumières*, Paris, Champion, 2010 (avec R. Morrissey).
- *L'Amérique des écrivains français*, ADIREL, Genève, Droz, 2011.

ジュヌヴィエーヴ・アルティガス=ムナン Geneviève Artigas-Menant

パリ第 12 大学名誉教授

1942 年生まれ。ルアン大学助教 (1968-1971)、パリ第 12 大学助教授を経て同フランス文学教授 (1971-2008)。1993 年以降は CELLF の哲学的地下文書目録チームのチーム長、*La Lettre clandestine* (1991 年創刊) の編集副主幹を務め、地下文書研究において主導的な役割を果たしてきた。膨大な手書き資料の分析をとおして、地下文書が印刷本の単なる前段階的・二義的な資料ではないこと、敢えて印刷されずに流布することにより、読者=写本者による自由な加筆を許す、万人に開かれた可塑的な素材として、18 世紀思想の展開の土壌となり舞台となったことを示した。ロベール・シャールについても精力的に研究を推進し、2008 年以降は CELLF に母体を置くロベール・シャール研究会会長を務め、シャールに関する国際シンポジウムを 1993 年、2004 年、2013 年に主催している。

主要著作

- *Lumières clandestines. Les Papiers de Thomas Pichon*, Paris, Librairie Honoré Champion, 2001.
- *Du Secret des clandestins à la propagande voltairienne*, Paris, Librairie Honoré Champion, 2001.
- *Leçons sur « Les Illustres Françaises » de Robert Challe*, Créteil, Publications de la Faculté des Lettres et Sciences Humaines de Paris XII, 1993 (avec J. Popin).
- *Robert Challe et les passions*, Paris, PUPS, 2008 (avec Alain Couprie).
- *Robert Challe au carrefour des continents et des cultures*, Paris, Hermann, 2013 (avec Jacques Cormier et Driss Aïssaoui).
- *Paris 1713 : l'année des « Illustres Françaises »*, Leuven, Peeters, 2016.